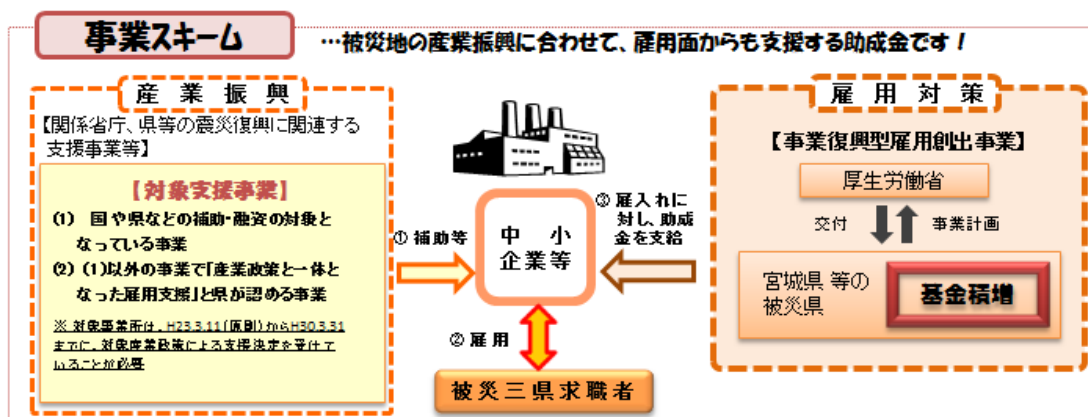


派遣先所属 宮城県経済商工観光部雇用対策課
 氏 名 西中 誠 (にしなか まこと)
 派遣期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
 氏 名 矢部 昇 (やべ のぼる)
 派遣期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の雇用対策課では、主に宮城県事業復興型雇用創出助成金に関する業務を行っています。これは被災地で安定的な雇用を創出するため、将来的に雇用創出の中核となることが期待される事業を行う事業所を雇用面から支援（雇入れに係る費用を3年間にわたり助成）する事業です。



宮城県事業復興型雇用創出助成金はⅠ型、Ⅱ型、Ⅲ型、中小企業型の4種類に分かれており、1班はⅠ型、2班はⅡ型、Ⅲ型及び中小企業型を主に担当しています。このように種類が分かれているのは、助成対象となる事業主等がそれぞれ違うためです。

担当業務のⅠ型の場合、4～5月は助成金額の確定業務を行いました。定期実績報告として4月に提出された約1,600事業所分の助成金の支払いを、出納閉鎖期間の5月までに全て完了させなければならない業務でした。6月以降は、助成期間が満了した事業所の実績報告や支給決定を受けた内容に変更が生じた事業について、事業主から提出された支給変更申請書の審査に関する業務を行っています。

また、Ⅱ型、Ⅲ型、中小企業型は、4～6月は支給申請の準備として、審査のチェックリスト、マニュアル、各種申請書類の作成業務を行いました。7月以降はⅠ型と同様、変更申請の審査業務を行うと共に、新たに助成金の支給を希望する事業者から提出された新規申請に係る審査業務を行いました。第1期受付では、新規、変更合わせて約80件の申請審査を行いました。助成対象となる型ごとに要綱、条件が異なるため慎重な審査が求められました。

担当業務では、被災者個人の方に直接相対する機会はほとんどありません。助成金の効果検証のために事業所を直接に訪問して被災時の状況などをお聞きすることはありますが、書類の処理や委託業者との対応が主です。そのためどこまで復旧・復興に寄与しているのか直接には目に見えにくいところがありますが、最終的な受益者である宮城県民の方の生活基盤の回復のため引き続き努力したいと思います。

所属する雇用対策課は、年々業務が落ち着いてきており、今は休日の出勤もほとんどありません。しかし、担当業務の性質上、案件が集中し、疲労がたまることのあるものの、困った時に相談しやすい雰囲気があります。また、派遣職員間だけでなくプロパー職員も含めて業務外の交流があり、職員が一丸となって業務に取り組もうという意識が強く感じられます。

2 被災地の復旧・復興の状況

宮城県庁などがある仙台市内の中心部は震災の影響が残っていると思われる場所はありません。しかし、石巻、南三陸、気仙沼など沿岸部では、現在も盛土の造成工事や防潮堤の建設などが進められており、また復興住宅の建設が進む一方で、仮設住宅もかなり残っています。

また、助成対象事業所を訪問する実地調査で、事業主から「施設の復旧は進んだけれど人が足りない。」という話が聞かれます。震災直後は施設などのハード面での支援が優先していましたが、施設が整っても人が足りず思うように復興が進まないという現状を知りました。私たちが自分の今携わっている「雇用創出」という業務の重要性を改めて理解し、引き続き支援を充実させていくことが必要だと感じました。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

休日には東北各地を巡りイベント等にも参加しています。先日、他の派遣職員と共に復興マラソンに参加してきました。震災後の宮城県内で初となる公認のフルマラソンであり、特に震災の被害が大きく、最近ようやく開通した道路や嵩上げが終了したばかりのコースを走り、復興の今を肌で感じる事が出来ました。沿道からは「来てくれてありがとう、走ってくれてありがとう」という声援が多くとても印象的でした。暖かさを感じると共に、こういったイベントで多くの人を訪れることにより、被災地にも活気が出て、インフラ・経済のみでなく心の復興も加速されていくのだと感じました。



復興マラソンフィニッシャーメダル
(宮城県石巻市名産：雄勝石)
雄勝(おがつ)地区は書道の硯の産地です